

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 22

2014年10月発行

企画展

「WAO! 和本」を読む

2014年アンケート結果

旧植田家住宅のあれこれ



連載コラム

「落穂拾い—今東光の薫風—(十六)」



展示のご案内

平成26年度 秋季企画展

飾る

KAZARU

～植田家を飾るものたち～

2014年
11月1日(土)
～12月25日(木)

休 館 日=火曜日(12月23日は例假)、
11月5日(水)・26日(水)、12月24日(水)
開館時間=午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料

◇11月23日(祝)14:00～(約20分)
ギャラリートーク ※申込不要
(予定日による観覧調整)

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅
〒581-0064 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL/FAX 072-992-5311
主催 NPO法人HICALI ホームページ <http://kyu-uedakejstaku.jp/>



平成26年度 秋季企画展

「飾る～植田家を飾るものたち～」

2014年11月1日(土)～12月25日(木)

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 企画展
「WAO! 和本」を読む
- 6 連続講座
「紙(かみ)」(全3回)
- 7 講座
今東光と八尾～今東光資料館の楽しみ方～
- 8 2014年アンケート結果
旧植田家住宅のあれこれ
- 10 ボランティアガイド養成講座(第三期)
- 11 防災! かまどでご飯炊き
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㊿
- 13 三会所だより(2)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十六)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



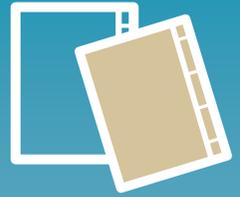
表紙写真

《ことのかみ》天和2年(1682)

箏(琴)の組。八橋検校(やつはしけんぎょう)作曲の組歌「梅が枝(うめがえ)」等が掲載されている。本書はいわゆる豆本といわれる大きさの和本で、袖の中に入れて携帯できることから袖珍本(しゅうちんぼん)ともよばれます。専用の木箱(ケース)付き。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



WAO! 和本

わお

～植田家の書籍～

を読む



往來物の展示



家相・人相・占いの本

【**往來物各種**】
『往來物』は、江戸時代の寺子屋などで使用されていた初等教科書の総称です。元來、



往來物 各種

『往來物各種』は、江戸時代の寺子屋などで使用されていた初等教科書の総称です。元來、一度読み解いてみたいと思います。

本企画展では、江戸時代から続く旧植田家住宅の所蔵する書籍およそ一〇〇〇点の中から、和本を集め、当時の植田家の役割や関心事を垣間見ようと試みました。また、和本そのものの味わいを発見してもらおうべく、多ジャンルの和本を紹介しましたが、ここでは企画展「WAO! 和本」をも

二〇一四年七月四日～八月三十一日の夏季期間は、企画展「WAO! 和本」植田家の書籍」を開催しました。昨今のスマートフォンなどの携帯情報端末やインターネットの普及により、文字を見る（操作する）機会が増えた現代ですが、「本」を読み、そこから情報や知識を得る人が減ってきたように思います。今のような情報（通信）機器のない時代、人々の情報源は、専ら人との会話や「本」だったといえます。また、多様化する価値観や情報、あるいは印刷技術の発展や優れたデザインによって様々な種類の書籍が現在出版されていますが、かつては日本の伝統的な「和本」が存在し、現代の書籍とは違った魅力を持っています。

手紙のやりとり（往来）の形式で書かれ、この書物を通して字の読み書きや知識などを覚ええました。植田家には定番の『庭訓往来』の写本もあり、当時の学習過程を知る貴重な資料となっています。

【藤沢南岳と植田家】

江戸時代後期の大阪に「泊園書院」（漢学塾）を開いた藤沢東咳の長男で二代院主の藤沢南岳とのつながりを示すものとして、植田家には南岳が編集した『七輯』のほか、藤沢南岳古希記念の肖像写真（明治四四年）、為書（依頼主の名等）の入った扁額などが残されています。また植田家の蔵書には大阪の懐徳堂関連の書籍のほか、漢籍（漢文で書かれた中国の書籍）が多くみられ、明治期の漢学塾との深い関わりを想像させます。



『七輯』(左)と「南岳 古稀記念の肖像写真」(右)



書箱に入った『史記評林』(左)と『資治通鑑』(右)



謡で使用した見台(左)と『謡本』各種(右)



←イラスト漫画集!?
『諸職人物画譜』



→
花火のレシピ本
『花火秘伝集』



植田家が作成した大正5年の『目録』

【『史記評林』と『資治通鑑』・『謡本』】

植田家の蔵書にはシリーズでまとめられている書籍も数多くあり、中国の歴史書である『史記評林』や『資治通鑑』（全二九四巻八〇冊）は専用の書箱に収められていました。いずれも書箱には本の題名が書かれてあり、当時の保管状況や書籍の中身が分かるようになっていきます。

また、植田家の蔵書の約二割は『謡本』です。古くは江戸時代後期のものから昭和時代のもので時代ごとに残され、植田家が代々、謡を嗜んでいたことが分かります。この『謡本』にも専用の書箱があり、その蓋の裏側には謡の曲目とともに稽古の実施状況が分かるように赤い丸印が記されていました。

【その他いろいろ、おもしろ和本】

他にも植田家には、まだまだたくさんさんの魅力ある和本があります。現代と同じように家相や人相などをみる「占いの本」や、今では当たり前のカラー（多色刷り）の「イラスト漫画（カット）集」、あるいは二〇種以上の「花火の作り方」が書かれた本など、とにかく興味は尽きません。

大正時代の頃、当時の植田家で作成されたと思われる「蔵書目録」も和綴じの形態でのごさされており、植田家において書籍がいかに重要なものであったかを物語っています。教養として、仕事のツールとして、あるいは娯楽として、書籍が今も昔も変わらず在ることを和本が伝えてくれます。

（学芸員 安藤亮）

「紙（かみ）」

今夏、企画展「WAO！和本展」の開催に関連して、「紙」をテーマにした全3回の体験型講座を行いました。

連続講座① 6・1(日)

「和紙って何だろう？紙すき体験」

第一回目は、日本の伝統的な「和紙」についての講座と、身の回りにある物を使ってする「紙すき」に挑戦しました。講座の前半では、和紙の原料である楮、雁皮、三桮の実物を見てもらいながら、それぞれの特性や活用方法、また和紙の歴史や製造方法などの話を当施設学芸員が行ないました。

連続講座② 7・6(日)

「和本を作ろう！」

第二回では、和紙を使ってのオリジナル和本手帳作りを行いました。和本の歴史、各部分の名称についてのレクチャーの後、早速、和本手帳の制作にとりかかりました。

まず表紙、中身（本紙）、裏表紙を作り、次にそれらを綴じるための穴を開けます。そして、和本作りで一番難しい綴じの作業。皆さんはじめは苦戦していましたが、参加者同士で教え合いもしながら、徐々に綴じ方のコツが分かった様子でした。作品が完成すると、喜んだり、ほっとする人もいたり、皆さんそれぞれ素敵な和本手帳を作って帰られました。

連続講座③ 8・3(日)

「紙の修復「裏打ち」体験！」

第三回は、紙資料修復の専門家・工房レストア（大阪市）の平田正和さんを講師にお招きし、虫食いや古くなって傷んだ紙資料を修理・修復する「裏打ち」の技を、体験を通して教えていただきました。資料保存の話と実演を交えた裏打ちの説明の後、全員が挑戦。「できるかな？」と恐る恐るしていた参加者も作業終了後には「もっと上手に仕上げたかった。もう一回やりたい」と言ってくださるなど、皆さん熱心に取り組んでおられました。

当日は生憎の雨で、裏打ちが終わった後の湿った紙を乾燥するのに少し時間がかかりましたが、その待ち時間を利用して、平田さんの紙資料の修復に関する貴重なお話を聞くことができ、盛況の内に講座は終わりました。



和紙についての講義



身近な物を使った紙すき



和綴じの説明をする学芸員



和本手帳の制作風景



実演を交えて説明する平田さん

(学芸員 谷口弘美)

講座「今東光と八尾」

「今東光資料館の楽しみ方」

毎年開催する「今東光」を題材にした講座では、伊東健さん(今東光を語る会)を講師に迎え、様々な切り口でお話をして頂いています。今回のテーマは「今東光と八尾」。今年の四月三〇日に八尾市にオープンした「今東光資料館」の完成記念として、講座では資料館の楽しみ方について語って頂きました。

会場の座敷はいつも通りの超満員。キャンセル待ちが出るほどの人気ぶりです。講座は今東光の友人である作家・川端康成の話から始まりました。東光の交友関係の広さと様々な有名人とのエピソードはその魅力の一つとなっています。今回の講座は、一作品をテーマに取り上げたこれまでの講座とは違い、今東光そのものにスポットを当てた基礎知識編ともいえる内容で、東光初心者から上級者まで楽しむ事ができました。また、資料館の見どころや展示について、東光の作品とエピソードを交えながら紹介をされました。



超満員の会場

【資料館のみどころ】

今東光資料館は、今年リニューアルオープンした八尾図書館の三階に設置され、月曜の休館日(祝日は開館)を除いて、午前一〇時から午後五時まで開館しています。入口には「今東光の素顔」と「生涯」が分かるパネルが展示され、奥に進むとズラリと並ぶ東光の作品(書籍)が迎えてくれます。ここには滅多に見ることのできない書籍もあり、本の装丁の美しさにも目が奪われます。また「本の木」とよばれる柱の中にも書籍が展示されています。



資料館について話す伊東さん

さらに奥へ進むと「今東光が出会った人々」と題して、多岐にわたる著名人との関係が紹介されており、資料館職員の堀さんがお薦めする人物の写真(「旧植田家だより」21号を参照)も

ここで見る事ができます。その隣の企画展のコーナーでは、現在「今東光の書・陶・画」遊びをせんとや生まれけむる」が開催中。他にも八尾の当時のくらしを伝える「今東光と河内風土記」のコーナーや、東光の書齋をイメージしたコーナーでは貴重な映像も見ることができます。今回の講座では、「今東光の生涯が十二分で分かる」ということで、その映像を特別に伊東さんの解説付きで見ました。

講座の後半は、『河内風土記』の全六巻を取り上げられ、各巻や各話ごとの特徴・内容、特に八尾の風景と関わりの深い部分について説明がありました。『河内風土記』には、現在は失われた(失われつつある)八尾の文化や風習がありありと描かれ、その作品を読むことで、八尾の記憶を辿る旅に出かけたような感覚を覚えます。「東光については様々な面から研究の余地がまだまだあります」と締めくくられ、最後は今東光資料館

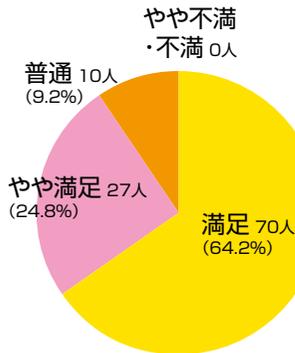
職員岡本さんが改めて資料館の紹介と告知をされました。資料館と今東光の楽しみ方を存分に味わえた講座でした。

(旧植田家住宅スタッフ)

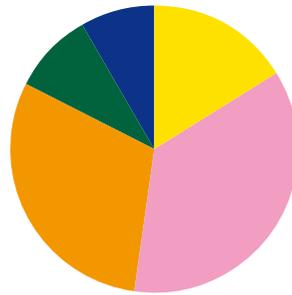


資料館職員の岡本さん(左)

Q7. 展示について？



Q8. 今後参加してみたい展示や企画は？



講座・講演会 ※1

- その他 7人(6.4%)
- 文学関連 8人(7.3%)
- 美術・工芸品関連 26人(23.9%)
- 大和川関連 31人(28.4%)
- 植田家関連 14人(12.8%)

※1・古民家の建築 ・植田家と市内のみどころ
 ・八尾の歴史 ・茶器、什器
 ・建物の改修 ・信貴山
 ・昔のくらし ・聖徳太子 など

イベント

- その他 2人(1.8%) ※2
- 食事会 9人(8.3%)
- 落語会 20人(18.3%)
- お茶会 15人(13.8%)
- おもちつき 16人(14.7%)
- コンサート 15人(13.8%) ※3
- まちあるき 34人(31.2%) ※4

※2 史跡・神社・仏閣めぐり

※3 ジャズ、クラシック、邦楽など

※4 JR八尾駅周辺など

Q9. その他、ご意見・ご感想など ※一部を抜粋・紹介

(企画展について)

- ・毎回企画展楽しみです(60代女性)
- ・和本の展示を見せて頂きました。建物もとてもきれいに保存されていて、すばらしいと思いました(50代女性)

(常設展について)

- ・夏の季節なので暑いのは暑いのですが、それを上回るくらい良い企画や展示だと思います(10代女性)
- ・大変びっくり。保存状態もきれいでこんなものが残されているかと感心した。(60代男性)
- ・建物を見に来ましたが、民具の展示が興味深かったです(水筒など)。また来たいと思いました(20代女性)

(常設展について)

- ・何回も見せて頂いていますが、今回も新しい資料の展示など参考になりました。ありがとう!!(60代男性)
- ・建物の内外ともきれいに整えられていて居心地のいい空間でした(50代男性)
- ・今まで知らなかったのが惜しいです。少し蚊が多くて困りました(50代女性)
- ・主屋や土蔵に実際入ることができるので、とても良いものだと思います。何度でも来たいです。(10代女性)
- ・天気もよい(暑いですが…)のでここに加賀屋新田、鴻池新田の会所巡りに来ました(50代男性)
- ・建物に興味があり、来てみて、企画展(WAO!和本)があり、面白かった(60代男性)

…etc

旧植田家住宅のあれこれ

毎年実施しているアンケートですが、夏季期間中のため「蚊」と「暑さ」に関する意見や感想が多くみられました。蚊については今年度から蚊取り線香を導入！かなり効果を発揮しています。暑さに関しては、旧家

特有の納涼を楽しめますが、井戸水をさわったり昼寝をして乗り切ってもらうしか方法がありません。

入館者のみなさんには満足をして頂き、何か発見をしてもらっている様子で、今後もあれこれと楽しみをご用意してお待ちしております。(スタッフ一同)

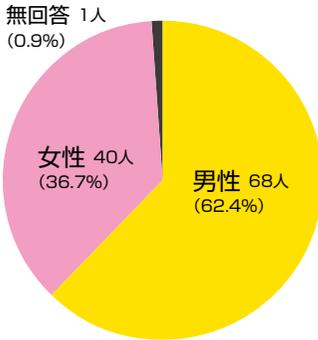
安中新田会所跡 旧植田家住宅 利用者アンケート 結果

今年の7月から8月までの2ヵ月間、旧植田家住宅で実施した利用者アンケートの結果です。ご協力ありがとうございました。

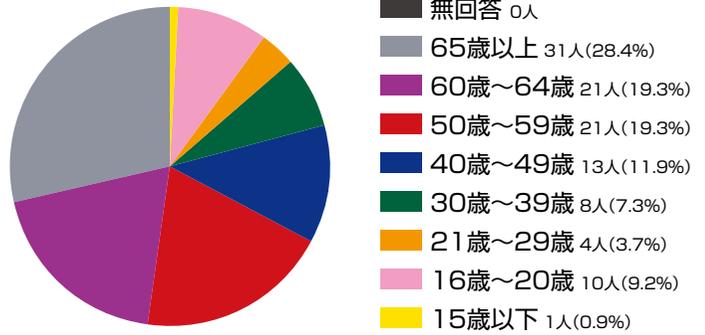
実施期間 2014.7.4～8.31

合計枚数 **109** 枚

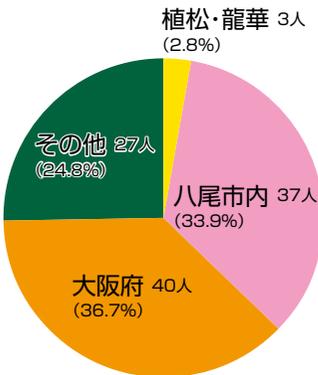
Q1. 性別？



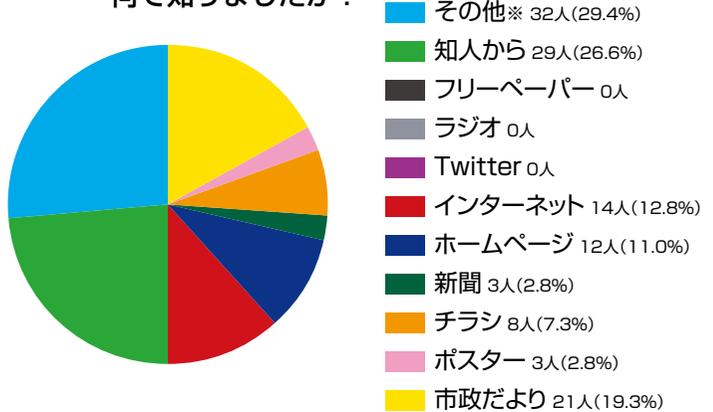
Q2. 年齢？



Q3. お住まいの地域は？

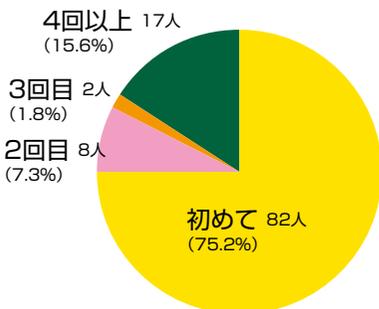


Q4. 旧植田家住宅を 何で知りましたか？

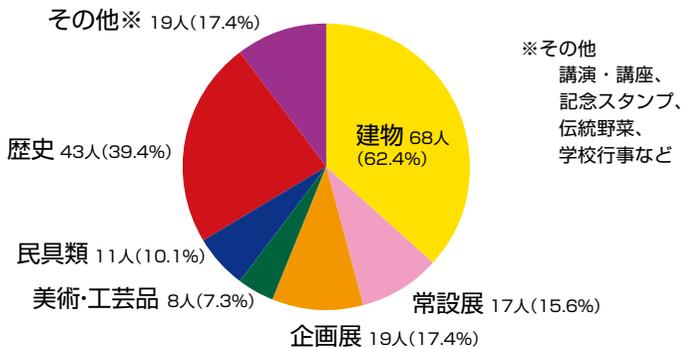


※その他 通りすがり(散歩中、サイクリングetc)、観光協会、など

Q5. 何回目の来館？



Q6. 来館した目的は？



※その他
講演・講座、
記念スタンプ、
伝統野菜、
学校行事など

2014年度 ボランティアガイド養成講座 (第三期)



第1回「ガイダンスと大和川付け替え」



第2回「植田家の建造物」(主屋)



第3回「昔の道具案内」(土蔵1)



第4回「修了検定とガイド演習」

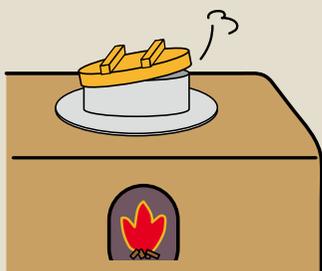
毎年五月から八月にかけて、旧植田家住宅ではボランティアガイドを養成する講座を開講しています。例年定員五名と募集は少ないですが、現在のボランティアガイド登録者数は、今年の講座修了生をあわせて九名になりました。みなさん全四回の講座を受講され、見事試験にも合格され、こちらの要請に応じて積極的にサポート活動を行なって頂いています。さて、今回で第三期目となる二〇一四年度ボランティアガイド養成講座には、五名の方が受講されました。今回はご近所にお住まいの方をはじめ八尾市の各地域から参加があり、受講に対する様々な想いを養成講座の第一回目「ガイダンス」

内で話をしてもらいました。また、例年と同じく「大和川付け替えと植田家」の基礎的な講義では、施設での取り組みについても触れ、ガイドを務めるにあたって必要な旧植田家住宅への理解を深めてもらいました。第二回目は、毎回好評の平谷宗隆さん(伝統林家研究家)による「植田家住宅の建造物」についての講座です。一般的な話から専門的な内容まで幅広く取り上げて頂き、建築についての理解がより深まりました。続く第三回では、学芸員による「昔の道具」の説明と、早くも第四回の修了検定の内容について、これまでの復習を兼ねて学びました。なお、養成講座

の期間中は、養成講座以外の講座・講演会やイベントにも参加してもらい、知識の習得とサポートだけでなく、来館者と企画者の両方の視点を考える機会となっています。そしていよいよ第四回の「修了検定」当日。受講生のみなさんは緊張の面持ちで試験に取り組まれ、その結果、基準点を大きく上回って合格されました。また仕上げのガイド演習はグループで相談し合いながら交替で行なってもらい、新しいボランティアガイド五名が誕生しました。今後も九名のボランティアガイドのみなさんの活躍を期待しています。(旧植田家住宅学芸員)

防災!

かまどでご飯炊き体験



ガスも電気も使わない

昔ながらの「かまど」でご飯炊き



タオルで作る防災頭巾

九月一日の「防災の日」にちなみ、災害でライフラインが止まった時などにかまどでご飯が炊けるように大人の方に覚えてもらおうと、普段は子どもを対象に行なっている「かまどでご飯炊き体験」を企画しました。まずは旧植田家住宅の「釜ばあ」と伊藤さんから、計量カップを使わずに炊飯に必要な水加減を計る方法を教えてもらい、薪の入れ方、火のつけ方と、手順の説明がありました。「さて、どなたかやってみてください」の声に参加者はタジタジと尻込み(笑)。仕方なくこちらから指名し、やってみようことに。燃え始めた火を見て、楽しそうに目を輝かせる子どもたちに比べ、真剣な表情の大人たち。「はじめチヨロチヨロ、中パッパ…」の説明にも感心したり、納得の顔でした。

炊飯の経過を見ながら、待ち時間を使って防災の話。八尾市の地域安全課で用意して頂いた「防災マップ」やポケット版の資料を配布し、普段からの備えについて話をしました。そしてスタッフが用意した防災用品を並べて見てもらいながら、専用のグッズがなくても一般家庭で使っている物も、いざという時に代用できるという実例を挙

げて説明すると、みなさん興味津々。昨年の連続講座の「タオルで作る防災頭巾」も頭巾として使ったあと避難先で糸を解けばタオルとして使用できることや、断水した時のトイレの水は普段からお風呂の水を流さずのためにためておけばしばらく使えるが、簡易トイレを準備しておけば安心!と、実物を見てもらったところ、「ペットシートは代用できますか?」など、参加者からもアイデアが出されました。

何度か火加減をチェックし、おき火で蒸らしたご飯が出来上がり、植田家の畑で穫れた「勝間南瓜」入りの味噌汁と一緒に全員で試食タイム。「思ってたより早く炊けますね」「おこげがバッチリ。おいしー」と出来栄えにニコニコ。「たった一回の体験でも、いざという時、方法を知っているか、体験したことがあるかということが、実際に行動できるかどうかのカギになります」の言葉に皆さん大きくうなずいていました。

今回、地域の行事が重なってしまったり、ご近所の方の参加が少なかったのが残念でしたが、これからも積極的にこういう機会を作っていきたいと考えています。

(旧植田家住宅 澤田知英子)

なにわの伝統野菜 栽培日記

【害虫対策に】

野菜作りにつきものなのが、害虫との戦い。最近、家庭菜園がご趣味のお客さんも多いので、今回は害虫対策のお話を少し…。

畑では基本的に薬は使わないが、被害の大きさや虫によつては使用せざるを得ない場合もある。普段、虫よけのネットを

張って、飛来昆虫には対処しているが、土の中にいるネキリムシやコガネムシの幼虫などにはいつも頭を抱える。なので今回は薬以外でこれらの被害を抑えるため、トイレットペーパーの芯(☆1)と卵の殻(☆2)を使った方法、そしてニンニクとトウガラシ、酢などの食品で作る防虫スプレーなどを試みた。また、畝立てした後にヨーグルトを水で溶かしたものを土に撒いて連作障害の予防や(堆肥と同じように土の中の微生物を増やす働きがあるそうだ)、コンパニオンプランツ(共栄作物)として、大根やカブラに卵を産む毛

ンシロチヨウが苦手なレタスを畝の脇に植えこんでみた(蝶はレタスの匂いが嫌いで、近寄りにくくなるらしい)。

このように新たな作戦と、いつもの納豆パワーで11月27日に行われる食事会用の冬野菜が美味しく育つように願いたい。：おっと！絶対に忘れちゃいけない「田辺大根フェスタ」に向けても、二冠狙いで、より一層、か太い腕に力が入る。

☆1〈ネキリムシから苗を守る方法〉

- ① トイレットペーパーの芯を3等分に切り、植えてある苗の上からそっと被せる。
- ② 苗の根元をガードするように、芯の半分以上を土にしっかりと埋め込む。
- ③ 完成。コーティングがされていない紙なので、時間がたてば自然に朽ちる。



☆2〈ヨトウムシから苗を守る方法〉

乾燥させた卵の殻とトウガラシ(種を

とったもの)を、細かく砕いて苗のまわりに

ばらまくだけ。砕けた殻が近づく虫の腹をチクチク刺激するの
で苗に近づけない。
これも時間がたてば、
カルシウム分として
肥料になっていく。

*防虫スプレーとヨーグルト水の詳しい作り方をお知りになりたい方は、お問い合わせ下さい。



【お馴染みさん】

冬野菜の種まきから後期に入り、野菜を育てる子供のメンバーが変わった。と言っても前期で夏野菜を育てたお馴染みのメンバーがほぼそのまま更新。新たな子供も加わり、かなりの賑わいぶりだ。三坪ほどの小さな畑には、全員の伝統野菜が所狭しと植えられている。

今回から各自それぞれの野菜を責任をもって育ててもらい、希望があれば12月の田辺大根フェスタに出してもらおうかと思う。：うーん、こりゃ強敵だ。

さてさて、釜ばあVSお馴染みさん、勝敗はいかに??

マンジーくん

安富士 暁



三会所だより (2)

安中新田会所跡 旧植田家住宅 (指定管理者 NPO 法人 H I C A L I)、鴻池新田会所、加賀屋新田会所 (加賀屋緑地) の三会所では、現在、隔月で「三会所交流会」を密かに開き、各会所の関係者が集い、会所の P R や イベント について話し合っています。メンバーは、安中新田会所から学芸員が一〜二名、鴻池新田会所からも学芸員が一名、加賀屋新田会所からは住之江のまち案内ボランティアの会の二名が中心に集まり、大阪府下でたった三カ所しか現存しない貴重な会所屋敷を、どのように広く知ってもらうか、大きな課題となっています。

三会所交流を始めて数年が経過しますが、「会所」そのものの認知度も低く、とにかくこつこつ



きゅうちゃん河内木綿 Ver.



来館記念スタンプ

つと P R を続け、ホームページでの相互リンクから始まり、各会所や施設のイベントを互いに紹介し、協力も行なっています。その流れを受けて、秋の恒例イベント「関西文化の日」(関西広域連合、関西元気文化圏推進協議会主催)では、三会所をつなぐ P R も行なう予定になっています(「関西文化の日」には加賀屋新田会所の施設は登録されていません)。特に景品などはありませんが、各会所で来館記念スタンプを用意してお待ちしています。(安中新田会所 安藤亮)

◎ 三会所いべんと案内

◇ 鴻池新田会所

- ・ 11月9日(日) 「古地図みて歩き(2)」
- ・ 11月15日(土)・16日(日) 「綿繰り・綿打ち・糸つむぎ」(関西文化の日)
- ・ 12月14日(日) 「しめ縄つくり」
- ・ 12月21日(日) 「もちつき」



◇ 加賀屋新田会所(加賀屋緑地)

- ・ 住之江のまち案内ボランティア養成講座
- (11月15日・22日、12月6日・13日 全4回)



場 所：住之江区南加賀屋4-8
交 通：地下鉄「住之江公園」駅下車
徒歩15分・市バス「南加賀屋四丁目」下車徒歩5分
休園日：月曜日、年末年始
開 園：10時～16時30分
入場料：無料



場 所：東大阪市鴻池元町2-30
交 通：JR学研都市線「鴻池新田」駅
下車、南東に徒歩5分
開 館：10時～16時
休館日：月曜日、祝日の翌日(土・日除く)
観覧料：大人300円、小・中学生200円
お問い合わせ：06-6745-6409(電話)
06-6744-7498(FAX)

落穂拾い

― 今東光の董風 ― (十六)

文・伊東健



信長に従うことができないマンシヨの形勢は、どんどん不利になっていきます。明智光秀が本能寺の変を起こした際には、秀吉の「中国大返し」を読みきれずに、明智支持に回った三箇勢は窮地に追い込まれます。

河内の三箇城を攻撃する主勢力が、同じキリシタン大名である摂津を拠点とする高山右近でした。右近の苦悩を東光は、次のように記します。

若し自分がバードレのことを聞かずに明智方になっていたら、高槻城もまたこの三箇城と等しく攻められて焼亡しただろうと思う。畿内における有力なキリシタンの牙城が一つ潰れて行くことは、それだけキリシタンの羽翼を殺ぐことであって、これほど大きな損失はないのだ。それを思

うと、どんなことがあっても教会を喪うほどの合戦は避けなければならない。(後略)

右近とマンシヨは敵対しながらも、同じ信仰を持つ同士の話し合いを行い、河内キリシタンを右近に引き受けてもらうことに決めますが、押し寄せる秀吉軍の軍勢に、城も教会も火を放たれてしまいます。

「戦が厭いとになったら、摂津衆と共に祈れ。キリシタンは死んではならぬのじゃ」

マンシヨの指図に従ってそろそろと河内武者等は高山勢の方へ歩いて行った。それを見ると高山軍から期せずして歓呼の聲が大空をどよもして挙げた。二千の精兵の挙げる悦びの声はいつまでも青空にこだました。(中略)

マンシヨはお茶阿を連れて高山の陣前を横に過ぎると、静々と南の方へ下って行った。その後姿を鞍壺で伸びあがって眺めていた高山右近太夫は、大きな声を挙げて「生きろ、マンシヨ」と叫んだ。

その声につれて二千有余の軍兵が同じ

ように

「生きろマンシヨ」と叫んだ。その声が聞えたか聞えないのかマンシヨはもう一人の武者姿を従えて砂塵をあげて南下して行った。(後略)

小説のタイトルが、力強く響く名場面です。東光は単行本のあとがきで

文藝春秋がこのような小説を一カ年間も連載してくれた忍耐強さには大いに敬服するが、文学者というものは一生に一作や二作や三作は、批評も人気も顧慮することなく書きたいものを書くことは好い勉強だと感謝せずにはいられないのである

と書いています。

河内平野に忽然と浮かぶように存在していた三箇城や華麗な教会の姿は、歴史の渦にとけるように消えてしまいました。郷土史の断片を拾い集めて「書きたいものを書いた」東光文学の白眉「生きろマンシヨ」は、直木賞受賞作「お吟さま」前史としても読めますので、ぜひ再読してみてください。

[2014年11月～2015年1月]

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展示

◎11月1日(土)～12月25日(木)
企画展「飾る～植田家を飾るものたち～」

2015年
◎1月5日(月)～3月4日(水)
企画展「ちょっと昔の暮らしと道具」(仮)

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企画

(詳しくはお問い合わせください)

◎11月
8日(土) 植松灯籠の日(夜間開館)
16日(日) コンサート八尾の音楽家「旧家でJAZZⅢ」
27日(木) 旧家で愉しむ食事会

◎12月
13日(土) こどもガイド体験講座2
21日(日) 昔の暮らし体験「おもつつき大会」

2015年
◎1月
11日(日) 連続講座「木(き)①」(全3回)
25日(日) こどものためのお茶会



休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12 December

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2015 / 1 January

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

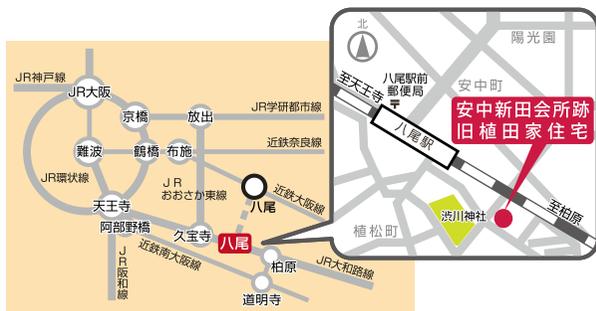
●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

八尾市立歴史民俗資料館

〒581-0862 八尾市千塚三丁目180番地の1
TEL 072-941-3601 FAX 072-941-6193

- Eメール** yao-muse@kawachi.zaq.ne.jp
ホームページ <http://www.kawachi.zaq.ne.jp/yaorekimin/>
観覧料 一般 200円 高・大学生 100円
【特別展】一般 300円 高・大学生 150円
65歳以上、小・中学生、障がい者手帳等を持つ方
及びその介助者、学校園行事引率者は無料
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 火・12月28日～翌年1月4日・展示替えの日
但し、臨時に休・開館する場合もあり
交通機関 近鉄信貴線「服部川」駅下車 北へ徒歩約8分



八尾市立埋蔵文化財調査センター

〒581-0821 八尾市幸町四丁目58番地の2
TEL&FAX 072-994-4700

- Eメール** maibun_zyao@kawachi.zaq.ne.jp
ホームページ http://www.kawachi.zaq.ne.jp/zyao_maibun/center/
観覧料 無料
開館時間 9:00～17:00
休館日 土・日・祝日・12月29日～翌年1月3日
但し、臨時に休・開館する場合もあり
交通機関 近鉄大阪線「八尾」駅下車 駅前バスターミナルより、
近鉄バス萱島・住道行「西郡西口」下車、北東へ徒歩約2分



八尾市立しおんじやま古墳学習館

〒581-0854 八尾市大竹五丁目143番地の2
TEL&FAX 072-941-3114

- Eメール** sionji@racco-taiken.com
ホームページ <http://racco-taiken.com/sionji/>
展示室観覧料 一般 200円 高・大学生 100円
小・中学生、障がい者手帳等を持つ方
及びその介助者、学校園行事引率者は無料
開館時間 9:00～17:00
休館日 火・祝日の翌日・12月28日～翌年1月4日
但し、臨時に休・開館する場合もあり
交通機関 近鉄大阪線「河内山本」駅から
近鉄バス瓢箪山駅行き「大竹」下車 東へ徒歩約5分



安中新田会所跡旧植田家住宅

〒581-0084 八尾市植松町一丁目1番25号
TEL&FAX 072-992-5311

- Eメール** info@kyu-uedakejutaku.jp
ホームページ <http://kyu-uedakejutaku.jp/>
観覧料 一般 200円 高・大学生 100円
小・中学生、障がい者手帳等を持つ方
及びその介助者、学校園行事引率者は無料
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 火・祝日の翌日・12月28日～翌年1月4日
但し、臨時に休・開館する場合もあり
交通機関 ●JR大和路線「八尾」駅下車 南出口より東へ徒歩約3分
●近鉄大阪線「八尾」駅から 近鉄バス藤井寺駅行き
「JR八尾駅前」下車 南東へ徒歩約5分



八尾市の文化財施設

八尾市内にあるいろいろな文化財や史跡の情報を
インターネットで提供しています。

ホームページアドレス <http://bunka.city.yao.osaka.jp/>

 **八尾市文化財情報システム**
Yao Cultural Heritage Online

八尾市教育委員会 文化財課 八尾市本町一丁目1番1号 Tel 072-924-8555